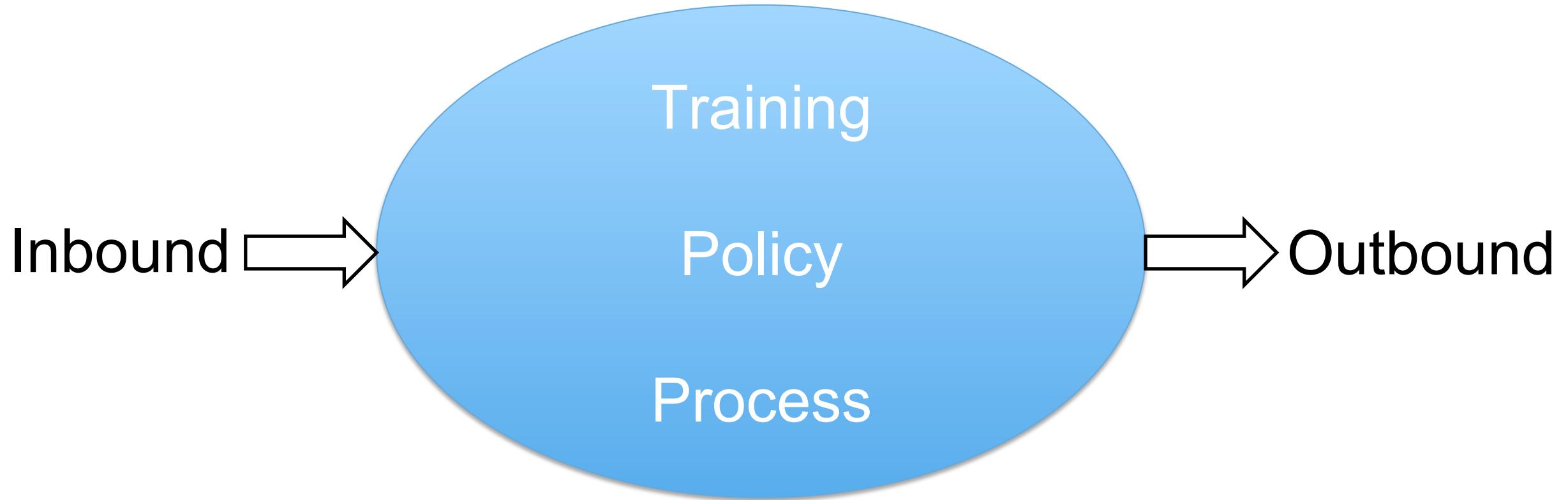




# OPENCHAIN

Complex Made Simple

“How do I trust my open source supply chain?”



We use the OpenChain Specification to describe the right approach.

Learn more here:

<https://www.openchainproject.org/spec>

We use the online OpenChain Conformance to ask the right questions.

Learn more here:

<https://www.openchainproject.org/conformance>

We use the OpenChain Curriculum to provide the supporting reference and training materials.

Learn more here:

<https://www.openchainproject.org/curriculum>

## Platinum Members



arm



HITACHI  
Inspire the Next

QUALCOMM®

SIEMENS

SONY

TOYOTA

WD Western  
Digital®



# Community Work Teams

- 1.Specification - Chaired by Mark Gisi (Wind River)
- 2.Conformance - Chaired by Miriam Ballhausen (SCA)
- 3.Curriculum - Chaired by Alexios Zavros (Intel)
- 4.Onboarding - Chaired by Nathan Kumagai (Qualcomm)

Let's jump forward to announcements

# OpenChain プロジェクトって？

OSSサプライチェーン全体にわたる信頼を築き、OSSの普及促進を目指しているOSSサプライチェーンの参加者が各組織内に確立すべきコンプライアンスプログラムの要件を、**OpenChain仕様**として定義し、その活用を推進するプロジェクトです。

OpenChain プロジェクトは、コンプライアンス プログラムの要件を定義する

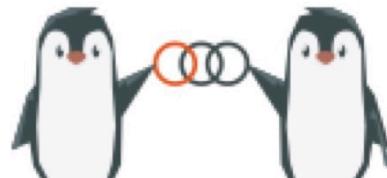
”仕様”、仕様への適合を自己認証する”適合”、仕様の要求事項の一つである  
社内教育プログラムに活用することを想定した、PowerPointスライド集の  
”カリキュラム”を3本の柱として活動しています。



2018年5月時点で以下の企業が参加しています。

Adobe, Arm, Cisco, COMCAST, GitHub, Harman, HPE, Hitachi,  
Qualcomm, SIEMENS, ソニー, TOYOTA, Western Digital, Wind River

<https://www.openchainproject.org/>



## Japan WGって？

日本でもコンプライアンスは重要という課題意識の元、以下のようなモチベーションで設立したWorking Groupです。

- ・日本でコンプライアンスの意識を高めよう！
- ・日本からアジアに向かってコンプライアンスの意識を高めよう！
- ・コンプライアンスに対する課題に関して情報交換しよう！
- ・日本語で議論が出来る場を設けよう！

賛同して頂ける参加者を募集中。

<https://wiki.linuxfoundation.org/openchain/openchain-japanese-working-group>

# OSSコンプライアンス～組織・体制面～

7

会社名	トヨタ自動車株式会社		
記載者	竹見 宏樹	記載日	2018/4/17
組織	専属組織あり / <b>バーチャル or コミュニティ型</b> / 担当者レベル / Alone (備考:		
人数	100人以上 / 数十人 / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ (備考:		
当社の ポイント	・知財が旗振り、OSS諸問題を解決すべく合議体を形成 ・OSS利活用が拡大 ⇒ 全社的なOSSリテラシー向上策を推進中		
課題	・合議体含め、ボランタリーな活動 ・全社横断的に組織だったOSS対応体制を構築中 ・サプライチェーン全体のコンプライアンスの担保 ・コントリビューションにおける諸問題(税務、IP解放等)の解決		
備考	<b>【質問事項】</b> ・全社横断的な教育プログラムをどれくらいの頻度で誰を対象に実施しているか (Spec.の解釈と合わせて)。 ・全社横断的に組織だったOSS対応体制をどのように作ったか ・サプライヤ/海外R&D等に対してどこまで対応を求めているか(報告フォーマットの統一、取引契約における表明保証等)		

# OSSコンプライアンス～組織・体制面～

5

会社名	富士通グループ		
記載者	町田裕樹	記載日	2018/4/18
組織	専属組織あり / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone		
人数	100人以上 / 数十人 / 10～20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ		
当社の ポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>膨大なFOSS(約700パッケージ×10世代以上)を社内の管理システム※に登録しなければならないため、自動登録が必要 ※2018/3まではBlack Duck®社のCode Center™、2018/4からはFLEXERA SOFTWARE®社のFlexNet® Code Insight™をベースに利用したシステム</li><li>rpmファイルから登録、ソース解析ツールでの登録、SPDXファイルからの自動登録を検討したが、FOSSのデータベースとの連携が出来ない</li><li>SPDXの情報をを利用して、管理システムのFOSSデータベースでパッケージを検索した結果、HomepageのURLとバージョンでの一致性が高いことがわかったが(723パッケージ中136パッケージが該当)、登録できないパッケージもあった<ul style="list-style-type: none"><li>e.g. e2fsprogsが“Ext2 Filesystems Utilities”として登録されている</li><li>FOSSデータベースの情報が一部欠けている</li><li>SPDXファイルにHomepageの情報が記載されていない</li><li>バージョンが明確に記載されていない</li></ul></li><li>SPDXファイルのHomepageのURLが記載されていない、バージョンが明確に記載されていない問題をYoctoで修正した(102パッチを投稿)</li></ul>		

# OSSコンプライアンス～組織・体制面～

3

会社名	株式会社 日立ソリューションズ		
記載者	渡邊歩	記載日	2018年4月18日
組織	<p>専属組織あり / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone (備考: OSS専門組織ではないですが、知財部門の権利保全を担当する部署のミッションのひとつにOSSのコンプライアンス管理があります)</p>		
人数	<p>100人以上 / 数十人 / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ (備考:</p>		
当社の ポイント	「他社権利保全」という題目で「技術情報等取得」に関する規定があり、OSS取得時には取得情報の申請・専門組織による審査・承認が義務付けられています。		
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>取得審査の手続きが煩雑</li></ul>		
備考	<p>申請・審査・承認の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①提案元(開発部門)から決裁伺(OSS一覧、ライセンス、使用方法などの情報を含む)を提出</li><li>②認定委員会(知財・法務・調達)による審査・合議による決済</li><li>③取得許可が下り、取得可能になる</li></ul>		

XXXXXX OPENCHAIN COMPLIANCE CHECK

Nº	Spec	チェックリスト	Yes	No	次のステップ	書類	備考
1.a	1.1; 1.1.1	供給ソフトウェアの頒布に関して FOSS ライセンスコンプライアンス遵守を規定する文書化されたポリシーを用意していますか？（例えば、トレーニング、社内 Wiki、あるいは、他の伝達手法を用いて）					
1.b	1.1.	そのポリシーは社内で周知されていますか？					
1.c	1.1.2	文書化された手順によって FOSS ポリシーの存在がすべてのソフトウェア要員に周知されていますか？					
1.d	1.2 - 1.2.1	以下のようなトピックをカバーした FOSS トレーニング資料（例えば、スライドショーやオンラインコースなど）を用意していますか？					
	1.2	- FOSS ポリシー、および、どこでそれを見ることができるか？					
	1.2	- FOSS、および、FOSS ライセンスに関する知財法の基礎					
	1.2	- FOSS ライセンスの基本概念（パブリミッシャーライセンスやコピーレフトライセンスの概念を含む）					
	1.2	- FOSS プロジェクトのいろいろなライセンスモデル					
	1.2	- ソフトウェア要員の役割と責任（FOSS コンプライアンスに関しては具体的に、また、FOSS ポリシーについては概要的に）					
	1.2	- 供給ソフトウェア中に含まれる					

## 総括的コンプライアンス チェックリスト

### ステップ #1: 繼続的なコンプライアンス業務

- すべての FOSS を購買・開発サイクルの早期段階で見つけること。
- 使用するすべての FOSS パッケージをレビューし、承認すること。
- FOSS の義務を満たすために必要な情報を検証すること。
- 外部の FOSS プロジェクトへの貢献をレビューし、承認すること。

### ステップ #2: コンプライアンス活動を支える要件

- 十分なコンプライアンス要員を確保し、責任系統を明示すること。
- FOSS コンプライアンスプログラムを支えるために既存のビジネスプロセスを適合させること。
- すべての要員に FOSS ポリシーのトレーニングを行うこと。
- すべてのコンプライアンス活動の進捗を追跡すること。

Get this material today:

<https://www.openchainproject.org/news>

Coming later this month...



# OPENCHAIN

The OpenChain Project will host an Open Source Compliance Workshop from 8am to 12 noon on the 25th of June at LinuxCon China (Beijing). This workshop is open to everyone and is free of charge. Register by sending an email to [coughlan@linux.com](mailto:coughlan@linux.com)

## Venue:

国家会议中心

中国北京市

朝阳区奥林匹克公园

天辰东路7号

C1号入口

China National Convention Center (CNCC)

No. 7 Tianchen East Road

Chaoyang District

Entrance Gate - C1

Coming in July...

## Specification

OpenChain仕様は、オープンソース品質コンプライアンスプログラムの重要要件を定義している業界標準です。これによりサプライチェーンにおける信用を築くことができ、あらゆるサイズ、あらゆる業種の企業に適しています。OpenChain仕様は、幅広い教育資料や参考資料、適合性を確認する簡単なオンラインアンケート、活気のある国際コミュニティによってサポートされています。

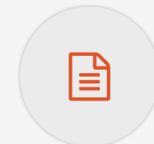
[仕様を読む](#)[適合性を確認する](#)[FAQを見る](#)[翻訳版入手する](#)[仕様を改善する](#)

## Self-Certify

OpenChain適合により、あらゆるサイズの企業、そしてあらゆる業種の企業がOpenChain仕様に適合することができます。これにより、サプライチェーンの企業間の信頼を築くことができます。また、購入者は購入がより簡単に行え、サプライヤーは推薦サプライヤーの立場を簡単に手に入れられます。適合となるためには、オンラインで質問に答えてください。時間制限はありませんし、内容は完了まで非公開のままです。



適合性を確認する



FAQを見る



翻訳版入手する

Coming in August...

# OpenChain @ COSCUP Taiwan 11-12 August

The OpenChain Project will be featured at (and a sponsor of) COSCUP in Taipei on the 11th and 12th of August 2018. Our project leader Shane Coughlan along with Japanese community volunteers and Taiwanese community collaborators will participate in the event's new legal track to share practical compliance solutions and case studies.

<https://www.openchainproject.org/news/2018/05/16/openchain-coscup-taiwan-2018-legal-track-multiple-speakers>

# OpenChain @ COSCUP Taiwan 11-12 August

我今年在COSCUP申請了一個授權遵循（FOSS Compliance，大陸稱為「授權合規」）的社群軌，目前已經敲定了兩位日本Sony公司的人，會來台灣分享他們在Sony內部推動授權遵循的親身經驗，以及日本業界目前的實務狀況。若是有人有興趣分享相關的議題，非常歡迎投稿到FOSS Compliance社群軌，演講語言中文或英文皆可。投稿頁面如下：

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfKnffscKe2ZEP3fInJkAwEzXFUM24HZ7dYYluoGLmHMQjZw/viewform>

# Join the next meeting of the Japan WG

第5回会合（計画中） 2018年8月31日（金）  
場所：富士通（神奈川県川崎市）

The fifth meeting will be held on Aug. 31 , 2018.  
Venue: Fujitsu Office at Kawasaki (Kanagawa)

Learn more on our Japan Work Group wiki:  
<https://wiki.linuxfoundation.org/openchain/openchain-japanese-working-group>

# Be part of making a difference

Join our Japan Work Group mailing list:

<https://lists.linuxfoundation.org/mailman/listinfo/openchain-japan-wg>

# Get more material in Japanese

Visit our translations page:

<https://www.openchainproject.org/translations>

# Get more material in Japanese: Onboarding



## OPENCHAIN

### オリエンテーション

#### はじめに

OpenChainプロジェクトは、効率的なオープンソースマネージメントの鍵となる推奨プロセスを提示します。同プロジェクトは、オープンソースのライセンス コンプライアンスをシンプルで、一貫性のあるものにすることで、オープンソースに対する信頼を築きます。

OpenChain仕様書は、あらゆる高い品質のコンプライアンス プログラムが満たさなければならぬ一連の基本的な要件を定義します。OpenChainカリキュラムは、OpenChain仕様書の主要な要件に沿って、さまざまなオープンソースのプロセスやソリューションに対応した教育基盤を提供しています。同仕様に適合することにより、組織はこれらの要件を履行していることを外部に示すことができます。その結果、ソフトウェア サプライチェーンの参加者にとって、オープンソースライセンス コンプライアンスがより予測可能で、理解しやすく、効率的なものになります。

# Get more material in Japanese: Specification

## ゴール 1: FOSS に関する責任の理解

1.1 供給ソフトウェアの頒布について FOSS ライセンス コンプライアンスを統制する FOSS ポリシーが書面として存在していること。そのポリシーは組織内に周知されなければならない。

### 証跡となる資料 :

- 1.1.1 文書化された FOSS ポリシー。
- 1.1.2 すべてのソフトウェア スタッフが（トレーニングや社内 Wiki、その他実践的なコミュニケーションを通じて）FOSS ポリシーの存在を知ることのできる文書化された手続き。

### 論拠 :

FOSS ポリシーを作成・記録するステップが取られ、ソフトウェア スタッフに FOSS ポリシーの存在を知らせることを確かなものにします。FOSS ポリシーに含まれるべき内容についての要件はここで提示されませんが、他の節でポリシーに関する要件が課される場合があります。

# Get more material in Japanese: Training



OPENCHAIN

## カリキュラム

---

FOSSトレーニング リファレンス スライド OpenChain 仕様書 1.1版対応

本スライドは [Creative Commons CC0 1.0 Universal](#) ライセンスの下でリリースされています。

本スライドの使用、改変および共有にあたっての制限はありません。

また、これらは無保証となります。

本スライドは米国法令に準じています。米国外では法的 requirement 事項が異なる場合がありますのでコンプライアンス トレーニング プログラムで本スライドを使う際にはこの点を考慮する必要があります。

# Contents

1. What is Intellectual Property?
2. Introduction to FOSS Licenses
3. Introduction to FOSS Compliance
4. Key Software Concepts for FOSS Review
5. Running a FOSS Review
6. End to End Compliance Management (Example Process)
7. Avoiding Compliance Pitfalls
8. Developer Guidelines

# Check Your Understanding

- What type of material does copyright law protect?
- What copyright rights are most important for software?
- Can software be subject to a patent?
- What rights does a patent give to the patent owner?
- If you independently develop your own software, is it possible that you might need a copyright license from a third party for that software? A patent license?

# Welcome to The Stack



sw360portal

ScanCode toolkit



ClearlyDefined

# Be part of this

Join the community:

<https://www.openchainproject.org/community>

Self-certify your organization:

<https://certification.openchainproject.org>



# Questions?